



東北大学



みちのく震録伝



アジア航測株式会社

報道機関各位

平成 24 年 3 月 12 日

東北大学防災科学研究拠点

東北大学による東日本大震災アーカイブプロジェクト
「みちのく震録伝(しんろくでん)」において、
「LVSquare みちのく」を公開しました。

東北大学による東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」とその賛同・協力機関であるアジア航測株式会社は、震災直後から被災地の復興状況を撮影した現地写真や航空写真、全周囲（360°）映像をアジア航測が提供する情報共有プラットフォーム LVSquare（エルヴイスクエア）にて公開致します。

本サイトは、岩手県・宮城県・福島県の津波浸水域において、東北大学防災科学研究拠点の研究者が撮影した現地写真と、アジア航測が撮影した被災後の航空写真・現地写真・多時期の車載型 360° カメラ映像を集約し、地図と連動して重ね合わせて閲覧できるサイト「LVSquare みちのく」として公開するものです。

インターネットに接続できる PC があれば、下記 URL から誰でも自由に閲覧できます。

今後「みちのく震録伝」を通じて収集が期待される復旧・復興に関わる情報も同サイトにて配信することを予定しており、東北大学およびアジア航測の持つ多時期かつ視点の違う写真等を比較可能な形式で公開することで、震災発生直後の状況を記憶に留めるとともに、防災・減災教育や研究等への利活用ならびに被災地の復興に向けた様々な活動に寄与することをねらいとしています。

「LVSquare みちのく」 URL : <https://sites.google.com/site/lvsquaremichinoku/>

東北大学防災科学研究拠点
東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター
責任者： 教授 今村文彦
担当・お問い合わせ：
アーカイブ分室 南 幸弘（主任調査員）
柴山明寛（助教）、佐藤翔輔（助教）
TEL 022-795-4842、drcarchives@drc.tohoku.ac.jp

アジア航測株式会社
担当・お問い合わせ：
社会基盤システム開発センター
小野田 敏（センター長）
池田 辰也（システム開発部長）
TEL 044-967-6303、ml.shinrokuden@ajiko.co.jp
<http://www.ajiko.co.jp/>

参考資料

【本サイトの特徴】

- 東北大学防災科学研究拠点の研究者による岩手県・宮城県・福島県の津波被害が激しかった沿岸部の現地写真約 8 千枚を掲載。
- アジア航測が撮影した宮城県（七ヶ浜町、仙台市沿岸、仙台空港周辺、利府町、名取市、塩釜市、多賀城市、女川町、東松島市、石巻市）の全周囲（360°）映像を掲載。
※簡単な操作で撮影地点から周囲を見渡すように閲覧出来ます。
- アジア航測の撮影した斜め航空写真（福島~宮城沿岸） 46 枚を掲載。
- アジア航測で IKONOS 衛星画像から浸水地域を解析した画像 1 枚を掲載。
- GoogleMap を利用して、現地写真や全周囲（360°）映像の位置関係を把握しながら、自由なレイアウトで閲覧することが出来ます。

【東北大学による東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」】

プロジェクトの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/archive/>

【東北大学防災科学研究拠点】

本学では、2007 年に地域社会の防災・減災に関する学際的な研究を推進する文理連携チームとして、「東北大学防災科学研究拠点」を 21 名の学内教員で発足しました（拠点代表：東北アジア研究センター・教授 平川新、副代表：災害制御研究センター・教授 今村文彦）。東北地方では、宮城県沖地震と呼ばれる地震が 25~40 年という比較的短い間隔で周期的に発生しており、30 年以内の発生確率が 99%という世界で最も高い確率での発生が予想されていました（地震調査研究推進本部、2010 年）。この「来るべき宮城県沖地震」に備えるために、本学で行われている文系・理系の防災・減災研究を統合し、実践的な防災研究を推進するために掲載された組織として本拠点が形成されました。本拠点には、理学、工学、地学、心理学、情報学、経済学、医学、歴史学など様々な専門性をもった研究者が在籍しています。

本拠点では、東日本大震災の発生を受けて、さらに多くの教員の参加を得て、現在のメンバーは約 40 名となり、今回の震災に関する多角的な調査・研究の展開のみならず、現地の復興支援にあたっています。学際的アプローチによって東日本大震災の実態解明を行うとともに、低頻度巨大災害の対策、具体的には東海・東南海・南海地震の対策に向けた検討を行っています。なお、これまでの調査・研究で得られた知見は、定期的に報告会を開催し、広く情報発信に努めています（震災後 1 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月）。

参考

ホームページ：<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/labs/rdpm/>

所属メンバー(一部)のインタビュー記事：<http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/surveys/20110311/interview.html>

東北大学による東日本大震災報告会：<http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/surveys/20110311/event.html>